下関西高校へ入学した君たちへ、今年度も残り２か月となりましたが充実した学校生活が続いていますか？「進路だより７号」で君たちの１日の学力変化は0.3%で、１年間しっかり学習を継続的に努力すると１年間で３倍の学力向上に繋がり、受験期まで続けると５倍になると伝え、学習活動において**豊富な知識と知恵**を読書や高校生のバイブルである**教科書**を十分に活用し、ハイレベルの知識や思考力、判断力、表現力を身につけて欲しいとアドバイスしましたが実践できていますか？君たちは４月には**2年生となり、西高のロールモデルとして**新たに入学してくる１年生をしっかりとリードしていくミッションが加わります。自分を鍛錬し続け、１年生の頼りになる先輩になってください。

ところで、３年生の多くは現在、国公立大学の二次試験に向けての準備の最終段階に入っており、２月に入ってからも、多くの生徒が登校し、課外授業や個別指導などに集中力全開で取り組んでいます。３年生の受験に賭ける情熱も感じながら、２年後は自分たちの番だと少し意識をしておいてください。また、２月３日には文部科学省から二次試験出願期間の最終日である２月３日（金）10時現在の志願状況を取りまとめた内容について報道発表がありました。それによると、全国に82校設置されている国立大学の出願者は前後期合わせて276,846人で昨年度より3,829人減少していました。倍率は3.6倍でこちらは昨年度より0.1ポイントの低下となっています。同じく、92校設置されている公立大学は前中後期合わせて110,239人でこちらは719人減少、倍率は4.9倍で国立大学より高い倍率となっていました。ただし、まだ未集計の出願もあり、最終的には例年、国立で0.3ポイント、公立で0.7ポイント程度ここから上がりますので、最終倍率は国立が4倍程度、公立が5.5倍程度になるのでは考えています。その中で高倍率の国立大学ですが、前期日程の１位は昨年に続いて東京芸術大学美術学部で12.2 倍、２位は鹿児島大学共同獣医学部10.3倍です。以下、東京工業大学情報理工学院、島根大学医学部、徳島大学歯学部、千葉大学薬学部、岐阜大学医学部と続いていますが、今年度も**地方国立大学の医療系に人気が集まっています。コロナ禍がまだまだ続いていることもあり、この傾向は2年後も継続すると予想されます。**特に医歯薬系統を志望している生徒は今後に向けて今まで以上に高い意識で学習に取り組んでください。**受験勉強にフライングはありません。**週末などの機会を捉え、復習を兼ねて、解答可能な範囲の問題を教学社、駿台文庫が発行している赤本や青本などを手に入れ、気になる大学の過去問にチャレンジしてみてください。閲覧するだけでも有意義だと思います。

さて、３年前に大学入試改革が本格的にスタートし、その中心として大学入学共通テストが大学入試センター試験に代わり導入されました。君たちも既に理解していると思いますが、各科目共通の出題方針はそれぞれの問題で複数の資料を提示し、日常や学習場面を中心に問題解決をテーマとしたもので、その中で各教科固有の「思考力、判断力を問う」となっています。また、各科目の平均点がセンター試験時代は60点を目標に問題が作成されていましたが、共通テストは50点となりました。導入１年目は平均点もセンター試験時代と大きく変わりませんでしたが、２年目となる昨年度からは平均点も下がり、本格的に新しい入試が始まったと実感させられました。また、テストだけでなく、出願書類の内容も少しずつではありますが変化が見られます。具体的には、**君たち高校生の日常の活動を積極的に加点評価しようという動きが、総合型選抜や学校推薦型選抜だけでなく一般選抜でも始まったことです。**しかも、その加点が最大で100点という大学もありましたが、一番驚いたのは、ある国立大学医学部医学科で共通テスト受験から出願までの僅かな期間にＡ４版２ページにわたり、志望動機や高校時代に活躍した事柄を受験生に書かせるという自己評価書の提出を必須としていたことです。そのサイズは、近隣の山口大学医学部医学科の学校推薦型選抜の志望理由書をよりも遥かにボリュームのあるものです。医学部を受験しようとする生徒はこれに向けての負担はかなり大きく、だからこそ、１年生の時から医師として自分はどんな医療を学び、研究したいかを具体的に考えておく必要があると理

（次ページへつづく）

解してください。その他にも資格、ボランティア活動、探究的な活動なども加点項目の中にあり、改めて、ペーパー一辺倒、１点刻みの大学入試が少し変化してきていることを実感してはいます。ただし、**誤解がないようにして欲しいのは大学入試で一番は大事なことは授業で学んだことを理解することであり、一番、重要な教材は教科書であるということです**。

　では、医学部受験の話題も出てきたので、医学に関係する事柄を紹介したいと思いますが、君たちは**「胆力」**という言葉を聞いたことがありますか？日常会話で聞かれる言葉ではないので初めて知ったという人も多くいると思いますが、これはビジネスの交渉やスポーツの試合などで重要な働きをする能力で、最近、注目をされ始めた言葉です。これは**「物事に対して臆したり、動じたりしない精神力」**のことで、多くの人は危機的な状況に直面すると動揺しますが、そうはならず、どんな時でも平常心を失うことがなく、どっしりと構えていられる能力を指しています。**「胆力」**は人間の臓器である「胆のう」に由来のある言葉でもあります。「胆のう」は、五臓六腑の一つで、これには肝臓でつくられた胆汁を濃縮して蓄える働きがありますが、中国の医学の考え方で「胆のう」は物事を決断し、物事を決断し、判断を下す働きを持つとされているそうです。「胆」の働きが低下すると判断力が鈍り、反対に「胆」の働きが活発になると肝が据わって正しい判断ができるようになるそうです。このような考え方から、**「胆力」**が「精神力の強さ」を司るようになったと考えられています。胆力のある人は魅力的な人に思われますし、高校生にも**「胆力」**を身につけて欲しいと思いますが、そのハードルは低くはなさそうです。どうすれば十分な**「胆力」**が身につくのかということについて執筆された著書は沢山あるようですが、私はこの言葉を合気道家、フランス文学研究者など多くの肩書を持つ、内田樹さんの著作から知りました。話がそれますが、内田樹さんのことを入試に絞って紹介すると、彼は入試課題文の最頻出著者の一人で、著作は現代文や小論文の入試問題において多く取り上げられ、東京大学、九州大学、大阪大学など多くの入試問題で引用されてきました。教育、格差社会、グローバル化などテーマも多岐にわたっていますが、経験や身体感覚に根ざした発想で話題を展開する中で日本のあり方を啓蒙していくという論考が多く、入試問題の正統派として高く評価されているようです。また、正しい日本語の文章を使用されていること、自分の書いた文章を断りなしに自由に使ってよいとしていることなども多く採用されている理由です。神戸女学院大学教授として入試委員長をされた背景が関係しているのかもしれませんが、「入試問題であれ、自分の文章を一生懸命読んでくれる機会はありがたい。解答に取り組んでいる時の生徒は本気だろうから、著作権フリーで構わない。」というスタンスのようです。古いデータですが、2014年度入試の著作権者の申請件数では内田樹さんの「日本辺境論」は３位で21件でした。私は2012年秋に鳥取県米子市のある書店主催の講演会に参加した時に話を聞きました。お世話になっている鳥取県のある先生が内田さん公認の熱心な読者で私は偶然、米子に行った時にその機会に恵まれ、その先生と参加しました。演題や話の内容は余り覚えていないのですが、巷で取引や消費といったフローの経済が価値の高いものとして評価され、数字にならないストックされているものは評価が低くなっているが、実はこの数字にならない取引がだんだんと大きくなっているのだと言われていました。確か、お米を例にその話をされていましたが、私も授業で生徒に質問した時、自分の家の米をスーパーで買う人は少なく、自給率などの統計上に現れない、親戚などからもらう米が案外多いことを実感していたので、この話が腑に落ちたことはよく覚えています。そして、贈与などはモノだけでなく、人間関係にも当てはまり、あの人を応援したいと思うと、知り合いを紹介したり、活躍できる場を提供したりとサポートする行動に出る人が出てくるもので、それは数字にならないが大事な市場のひとつだとも言われ、脱貨幣の市場が今後は重要になってくるという話でした。そして、山陰の美しい山並みも素晴らしい資源であり、ストックである。このストックの活用が、米子の価値を高め、発展にもつながり、結局、「価値」よりも「価値をつくる能力」が大事になってくるというお話でした。最後は話題が反れましたが、胆力を含め、つづきは次回に。

（文責・進路指導部・松村）